

第3学年 外国語科（英語）学習指導案

日 時 平成24年11月7日（水）
授業者 T1 能海 観水
T2 ミシェル・ジーマーマン
場 所 3年2組教室

1. 単元名 New Horizon English Course 3 Unit 4 Learn by Losing

2. 単元のねらい

- ペアワークなどにおいて、間違うことを恐れずに話す。（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）
- 自分や相手を感じたことや、誰かにしてほしいことなどを、場面の流れに即して英語で話したり書いたりする。（外国語表現の能力）
- 「疑問詞＋to不定詞」「it ～ for 人 to ＋動詞の原形」「want 人 to ＋動詞の原形」を含む文を読み、内容を理解する。（外国語理解の能力）
- 「疑問詞＋to不定詞」「it ～ for 人 to ＋動詞の原形」「want 人 to ＋動詞の原形」を用いた文の意味・構造を理解する。（言語・文化についての知識・理解）

3. 学習の基盤（生徒観は省略）

教材観

本単元は、外国人力士たちの日本語との格闘の中で生まれた失敗談や、相撲界での教訓が紹介されている。文法事項としては、**Starting Out** では、「疑問詞＋to不定詞」、**Dialog** では、「it ～ for 人 to ＋動詞の原形」、**Reading for Communication** では「want 人 to ＋動詞の原形」が取り上げられている。これらを用いて自分のことについて説明することができるだけでなく、相手にたずねたりお願いをしたりするといったコミュニケーション活動が可能になる。その際、to の後に続く動詞は原形を用いることや、for や want の後に続く人称は目的格になるといった既習事項も再確認することができる。また、日本の国技である相撲を扱っていることから、本単元を通じ、日本の文化にさらに目を向け、興味・関心を持たせる良い機会になると考える。また、身近な存在であるALTの抱える日本の生活・言語に関する戸惑いを理解し、言語や文化の違いを知る良い機会ともなると考えられる。そして、「失敗から学ぶこと」や自分の知っている表現やほかの手段を使って自分の意思をなんとか伝えようとする大切さを理解させることもできると思われる。

指導観

本単元の学習を通して、「疑問詞＋to不定詞」「it ～ for 人 to ＋動詞の原形」「want 人 to ＋動詞の原形」の用法、意味を理解し、表現できる力を養いたい。これらは新出表現ではあるが、ここで登場する疑問詞や、want to ～は既習事項であり、比較的導入しやすいと思われる。誰かに何かをお願いするときに「want 人 to ＋動詞の原形」はよく使われる表現なので、導入ではTT形態を生かした場面設定をし、ALTとの対話形式で紹介したい。反復練習の際には、ICTを使いできるだけ多くの英文を練習させ文構造の定着を図りたい。

本校の研究主題は「互いに伝え合い、学び合い、高め合う生徒の育成」である。また、「論理的な思考をし、その考えを自分の言葉で伝えられる生徒」「互いの考えを尊重しながら受け止め、より深く思考できる生徒」を目指す生徒像としている。そのため、思考力を働かせるような学習課題を設定するために、場面や流れに適した表現を考える活動を取り入れたい。また、これまで学習した英語を用いて、「話す」活動と連動した「書く」活動を取り入れ、自らの考えを発信できるような機会を作っていきたい。

4. 単元の評価規準

ア. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ. 外国語表現の能力	ウ. 外国語理解の能力	エ. 言語や文化についての知識・理解
①ペアワークなどにおいて間違ふことを恐れずに話している。 (話すこと・言語活動への取組)	①自分や相手が感じたことや、誰かにしてほしいことなどを英語で話したりたずねたりすることができる。 (正確な発話) ②新出表現を用いてまとまりのある適切な英文や場面の流れに即した英文を書くことができる。 (適切な筆記)	①「疑問詞＋to 不定詞」「it ～ for 人 to ＋動詞の原形」「want 人 to ＋動詞の原形」を含む文の意味を理解している。 (正確な読み取り)	①「疑問詞＋to 不定詞」を用いた文の構造を理解している。 ②「it ～ for 人 to ＋動詞の原形」を用いた文の構造を理解している。 ③「want 人 to ＋動詞の原形」を用いた文の構造を理解している。 (書くこと・言語についての知識)

5. 指導計画と評価計画

時	○ねらい・主な学習活動	単元の評価規準	評価方法
1	○「疑問詞＋to 不定詞」を用いて表現する。 ・「疑問詞＋to 不定詞」を用いた文の構造を知る。 ・教科書本文を通じて「疑問詞＋to 不定詞」の使い方を理解する。	エの①	後日ペーパーテスト
2	○「it ～ for 人 to ＋動詞の原形」を用いて表現する。 ・「it ～ for 人 to ＋動詞の原形」を用いた文の構造を知る。 ・「it ～ for 人 to ＋動詞の原形」を用いた対話活動を行う。	エの② アの①	後日ペーパーテスト 活動の観察
3	○「it ～ for 人 to ＋動詞の原形」を含む文を理解する。 ・一郎とベッキーの明日の予定について読み取る。 ・強勢、イントネーション、区切りなどに気をつけ、適切な声量で音読する。	ウの①	ワークシート
4	○「it ～ for 人 to ＋動詞の原形」や原因を表す to 不定詞を含む文を理解する。 ・外国人力士たちの日本語での失敗談を読み取る。 ・強勢、イントネーション、区切りなどに気をつけ、適切な声量で音読する。	ウの①	ワークシート
5 本時	○「want 人 to ＋動詞の原形」を用いて表現する。 ・「want 人 to ＋動詞の原形」を用いた文の構造を知る。 ・「want 人 to ＋動詞の原形」を用いて場面の流れに即した英文を作る。	エの③ アの① イの②	後日ペーパーテスト 活動の観察 ワークシート
6	○「want 人 to ＋動詞の原形」を含む文を理解する。 ・別の外国人力士の日本語での失敗談と相撲界での教訓を読み取	ウの①	ワークシート

	る。 ・強勢、イントネーション、区切りなどに気をつけ、適切な声量で音読する。		
後日	□何をする自分が自分にとって「むずかしい」「おもしろい」「大切な」ことかを「it ~ for 人 to +動詞の原形」を用いて表現する問題。	イの①	ダイアログテスト
	□「疑問詞+to 不定詞」を用いて場面に合う適切な表現を書く問題。	イの②	ペーパーテスト
	□親（先生）が自分にしてほしいこと（どうなってほしいか）を考え表現する問題。	エの①②③	ペーパーテスト

6. 本時の学習

(1) 本時のねらい

- ペアワークにおいて、間違ふことを恐れずに話す。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- 新出表現を用いて場面の流れに即した英文を書くことができる。(外国語表現の能力)

(2) 本時の展開

分	学習活動	授業者の活動・支援	☆評価 (評価方法)
2	・英語であいさつをし、質疑応答する。	・英語学習の雰囲気を作るため、英語であいさつをした後、質疑応答する。	
5	・want to を用いた英文の口頭練習をする。	・本時の新出表現につなげるために復習として want to を用いた英文の口頭練習をさせる。	
17	<p>・本時の目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>want 人 to +動詞の原形「人に～してほしい」</p> </div> <p>・授業者の対話を聞き、どのような内容かを類推する。</p> <p>・対話の内容を理解する。</p> <p>・意味・用法を確認し反復練習をする。</p> <p>・板書をノートに整理し、新出表現を確認する。</p>	<p>・本時の目標を掲示し説明する。</p> <p>・興味・関心をひくような題材を使い、T 1 と T 2 が対話形式で導入する。</p> <p>・モデル対話の内容を確認する。</p> <p>・ICT を使って理解しやすいように支援する。</p> <p>・新出表現を板書し、ノートに書き留めるよう指示する。</p>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>I want ○○ to come to Chibu.</p> </div>	<p>・ノートに正確に板書事項が書かれているか確認する。</p>	

25	<ul style="list-style-type: none"> ・活動のやり方を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動のやり方を説明する。 	
<p>【「want 人 to +動詞の原形」を使った英文を次の会話文の空所に入れてみよう】</p> <p>< 1 ></p> <p>Mother : What are you doing ?</p> <p>Child : Ah...I am playing games.</p> <p>Mother : You have a test tomorrow !</p> <p>Child : <input style="width: 300px; height: 20px;" type="text"/></p> <p>< 2 ></p> <p>A : I'm hungry.</p> <p>B : Me,too. What shall we do ?</p> <p>A : <input style="width: 300px; height: 20px;" type="text"/></p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに新出文型を用いた英文を記入する。 ・ペアになり会話練習をする。 ・対話形式で英文を全体に発表する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・活動困難な生徒への声かけやアドバイスを行う。 ・それぞれのペアにつき、円滑に活動が行われるよう声かけを行う。 ・生徒とペアになり、発表する。 ・良い点を評価することで、生徒の次時への意欲を高めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆新出表現を用いて場面の流れに即した英文を書くことができる。(ワークシート) ☆ペアワークにおいて、間違ふことを恐れずに話している。(活動の観察)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の予定を聞く。 ・あいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の予定を伝える。 ・あいさつをする。 	

(3) 本時の評価

	<p>おおむね満足と判断される生徒の具体例</p>	<p>支援を必要とする生徒への指導の手立て</p>
<p>コミュニケーションへの関心・意欲・態度</p>	<p>ペアワークにおいて、間違ふことを恐れずに話している。</p>	<p>そばに寄り添い、ワークシートの該当箇所を示したり、活動の仕方を再度説明したりして支援する。</p>

	<p>十分満足と判断される生徒の具体例</p>	<p>おおむね満足と判断される生徒の具体例</p>	<p>支援を必要とする生徒への指導の手立て</p>
<p>外国語表現の能力</p>	<p>新出表現や既習事項を用いて場面の流れに即した英文を書くことができる。</p>	<p>新出表現を用いて場面の流れに即した英文を書くことができる。</p>	<p>必要な語彙や文の作り方を助言し、英文を書こうとするようはたらきかける。</p>

want 人 **to** + 動詞の原形 = 「人に～してほしい」

「人に～してほしいくない」 → _____ **want** 人 **to** + 動詞の原形

「人に～してほしいなかった」 → _____ **want** 人 **to** + 動詞の原形

「(あなたは) 人に～してほしいですか？」 → Do you **want** 人 **to** + 動詞の原形

【want 人 to + 動詞の原形】を使って会話文を作ってみよう

(2文以上でもいいです。少なくとも一つは【want 人 to + 動詞の原形】を使おう)

<A:親子の対話>

Mother : What are you doing ?

Child : Ah...I am playing games.

Mother : You have a test tomorrow !

Child :

【want 人 to + 動詞の原形】を使って会話文を作ってみよう

(2文以上でもいいです。少なくとも一つは【want 人 to + 動詞の原形】を使おう)

<B:おなかがへって…>

A : I'm hungry...

B : Me, too. What shall we do ?

A :